

令和6年度 白川郷学園 算数・数学科研究構想

研究主題

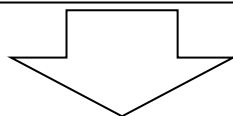
学びのひとりだちを目指す授業の創造

算数・数学科で願う子どもの姿

数学的な見方・考え方を働かせ、問題を主体的・協働的に解決したり、分かりやすく表現したりすることで、学んだことを日常生活や今後の学習につないでいこうとする姿

児童・生徒の実態

- 問題解決の場面で、既習内容を活用したり、見方、考え方を働かせたり、仲間との対話を意欲的に行ったりすることができる。
- 終末の場面で、評価問題に意欲的に取り組んだり、発展的な問題に挑戦したりすることができる。
- ▲自分の考えに自信がもてないため、個人追究や交流時に受け身になる姿が見られる。
- ▲身に付けた思考力や表現力を日常生活の事象と結び付けて考えることに弱さが見られる。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・既習事項との違いから学習意欲を高めたり、日常生活とつなげて考えたりする問題提示や課題設定の仕方
- ・課題追究の見通しをもたせる既習事項の確認や見方・考え方を引き出すヒントカードの活用

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・自己の学びに応じた学習方法を選択できる場の設定(一人学び・仲間学び)
- ・自分の考えを仲間に根拠をもって説明する交流の場の設定(学習支援ツールやキーワード、発問の精選)

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・自分の学びの定着を図るための評価問題の工夫
- ・個の変容の自覚を促す指導の工夫

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実